



繰越金と実質収支比率から財政運営を検証！

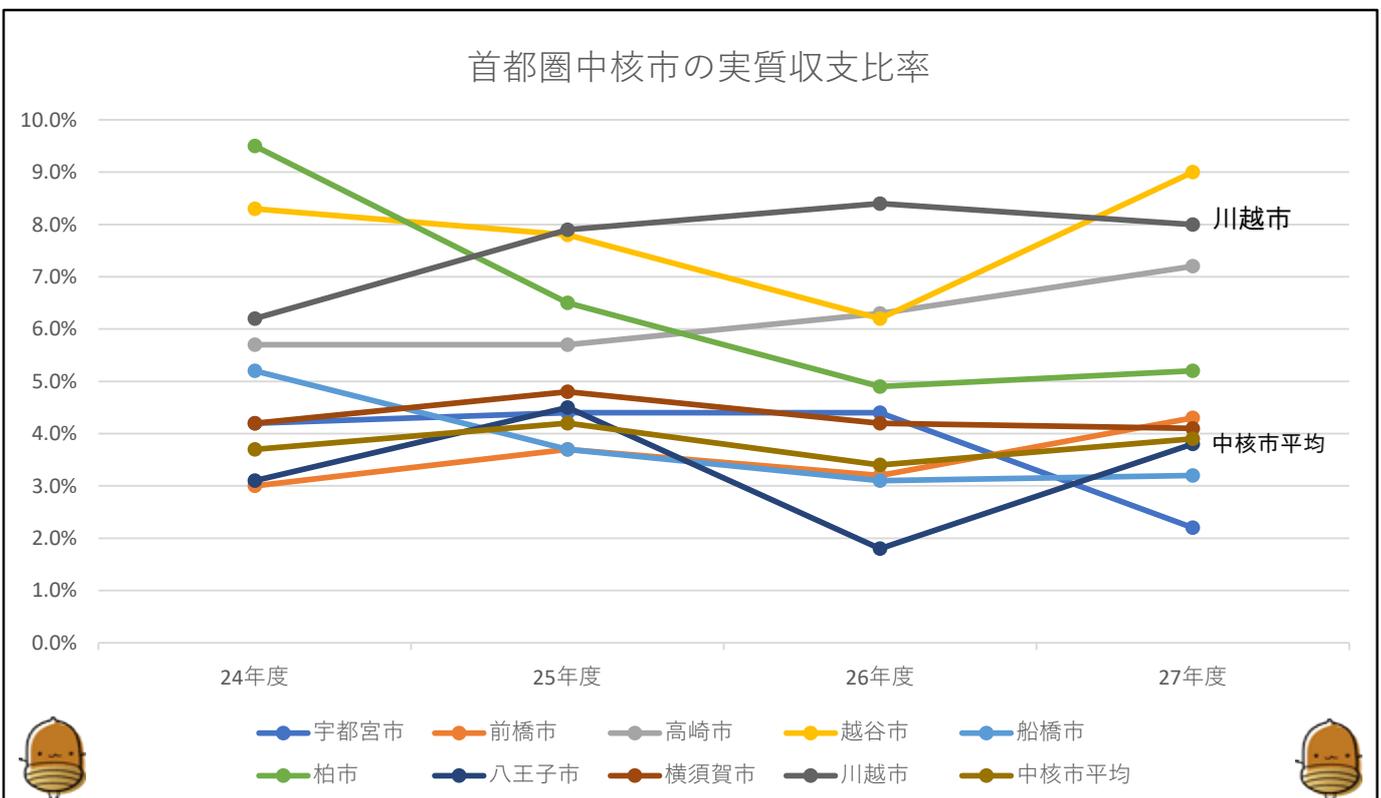
今回の質疑では、適正な財政運営か否かを、繰越金の構成比と実質収支比率から検証しました。繰越金とは、次年度に繰り越される剰余金のことですが、「お金が無いからあれもできない、これもできない」という割に、結果的に毎年中核市平均の2倍もお金を余らせているのが川越市です。

まず、川越市の歳入における構成比は、主に市税が50.1%国庫支出金が15.8%、県支出金が5.1%、市債が9.5%、そして繰越金が5%となっています。繰越金には、決算により生じた剰余分の他に、翌年度へ繰り越した財源としての繰越金があります。各自治体により、次年度継続事業がどの程度あるかなどの違いもあり、一概にこの数字のみをもって余らせすぎと判断することはできませんが、中核市の平均は約2.4%と川越市は中核市平均の2倍の繰越金を計上していることとなります。そしてこの5%という比率は近年同様の傾向で推移しています。ちなみに、川越市よりも繰越金の割合が大きい中核市は確認できた43市中、いわき市(7.9%)、越谷市(5.3%)、岐阜市(5.1%)の3市のみでした。

首都圏の中核市の繰越金は (H28年度)

宇都宮市	前橋市	高崎市	越谷市	船橋市	柏市	八王子市	横須賀市	川越市
1.2%	1.2%	1.8%	5.3%	0.5%	2.4%	2.5%	1.5%	5.0%

実質収支比率も、その年度の収入と支出の実質的な差額で、市の純剰余金や純損失を意味するものです。一般的に3%~5%が適正な範囲とされる実質収支比率より高い水準にある川越市の現状をどう認識しているのかを聞きました。3%を下回った場合、不測の事態が生じたときに弾力的な対応ができないとされ、5%以上の場合、年度途中で多額の不用額（予算額と実際に支出した額の差額のこと）が生じる等の実態を把握していれば補正予算等での対応により財源の有効活用ができたにもかかわらず適正な財政運営ができなかったものとされています。本市は28年度は5.7%と低減しましたが、下のグラフを見ると、他の中核市と比較すると高い水準にあり、財源を有効活用できなかったとされる5%を常に超えているのが分かります。



* 越谷市・八王子市はH27年4月から中核市に移行

	宇都宮市	前橋市	高崎市	越谷市	船橋市	柏市	八王子市	横須賀市	川越市	中核市平均
24年度	4.2%	3.0%	5.7%	8.3%	5.2%	9.5%	3.1%	4.2%	6.2%	3.7%
25年度	4.4%	3.7%	5.7%	7.8%	3.7%	6.5%	4.5%	4.8%	7.9%	4.2%
26年度	4.4%	3.2%	6.3%	6.2%	3.1%	4.9%	1.8%	4.2%	8.4%	3.4%
27年度	2.2%	4.3%	7.2%	9.0%	3.2%	5.2%	3.8%	4.1%	8.0%	3.9%